

『基礎縫い』

縫うという技術は、体を覆うために素材を様々な形に組み立てる、裁ち目のほつれを防ぐ、傷んだ被服を補修するなど人間が工夫してきたものである。

快適な衣生活を営むために、基礎的な縫い方を習得し、家庭生活に生かそう。

1 玉結び ～糸が布から抜けないように結び目を作る～

【指に巻き付ける方法】

- (1) 人差し指と親指で糸端をつまんで持つ。
- (2) もう一方の手で糸を持ち、糸を人差し指に一回巻き付ける。
- (3) 糸端と巻き付けた糸を、人差し指と親指をこすり合わせながらねじる。
- (4) 中指と親指を使い、糸端の方へと絡み目を引き締める。

【針に巻き付ける方法】

- (1) 針を持ち、もう一方の手で糸を持ち、針に糸を数回巻き付ける。
- (2) 針を持つ手で巻き付けた糸を軽く押さえたまま、もう一方の手で針を引き抜いて結び目を作る。

2 玉留め ～手縫いの最後を止めるときに用いる～

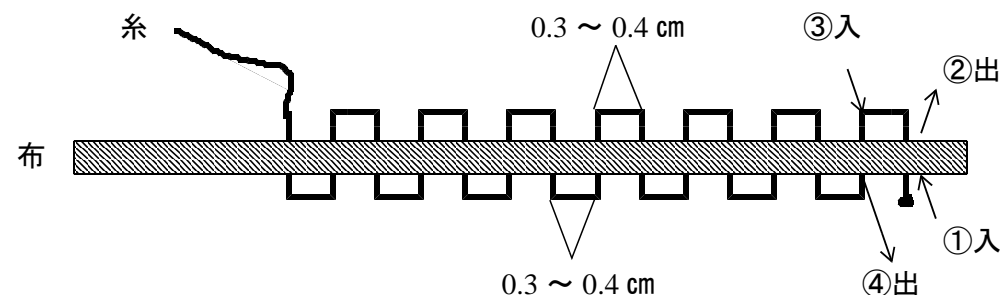
- (1) 縫い目の最後に針をのせる。
- (2) 糸を持ち、針に数回巻き付ける。
- (3) 巻き付けた糸を指で押さえながら、ゆっくりと針を引き抜き結び目を作る。

年 組 番 氏名

3 並縫い ～一般的な縫い合わせやミシン縫いの前のしつけ縫いに用いる～

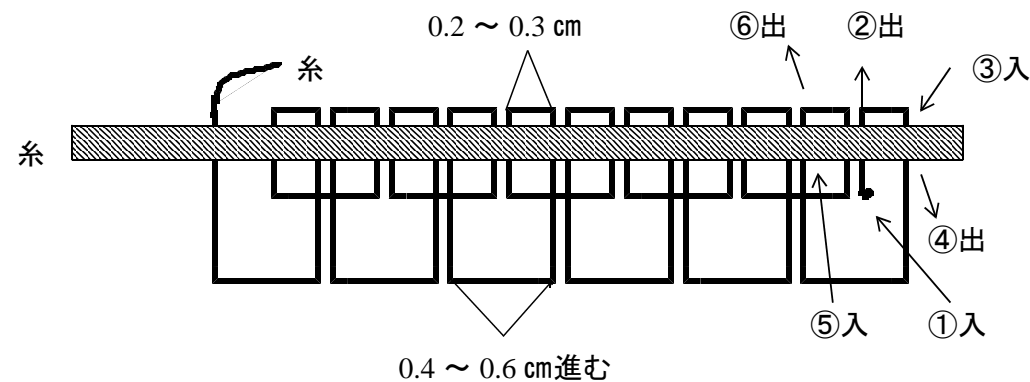
- (1) 玉結びを作る。
- (2) 布の裏から針を刺して針と布を持ち、もう一方の手で布を動かしながら 0.3 ～ 0.4 cmの針目の大きさに縫い進む。
- (3) 最後に布と糸のつり合いを確認（糸こき）して、玉留めをする。
※糸こきとは、縫い目を指先とつまんでしごいて、縫いつれを無くす技法のこと。

〔以下、①、②・・・は針の進む順序を示す〕



4 本返し縫い ～厚地を丈夫に縫うとき、またミシンの代わりに用いる～

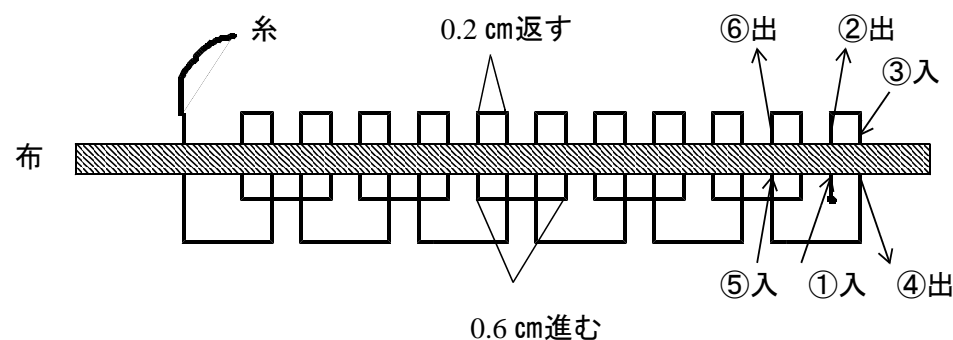
- (1) 玉結びを作る。
- (2) かけ針とくけ台を使い、布をピンと張る。
- (3) 布の裏側から針を刺して、ひと針の針目分を返して縫う。
- (4) 布と糸のつり合いを確認しながら縫い進め、最後に玉留めをする。



『基礎縫い』

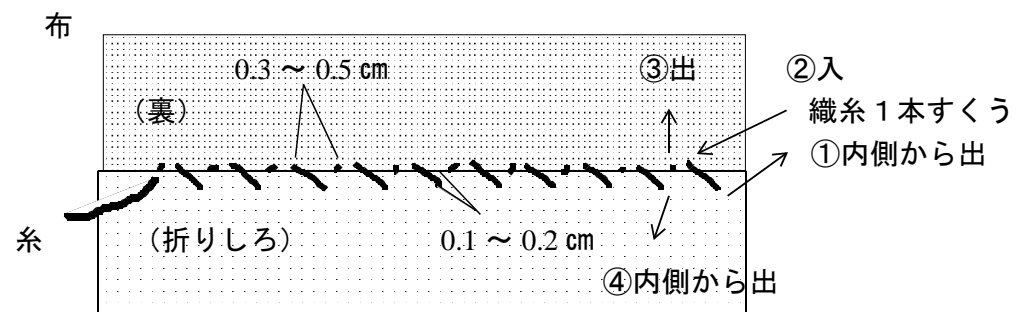
5 半返し縫い ~本返し縫いより速度は速いが、丈夫さはやや劣る~

- (1) 玉結びを作る。
- (2) 布の裏から針を刺して針と糸を持ち、もう一方の手で布を引く。かけ針とくけ台を使うと布がピンと張り縫いやすい。
- (3) 針を出した所から前の縫い目までの半分を返して縫う。
- (4) 布と糸のつり合いを確認しながら縫い進め、最後に玉留めをする。



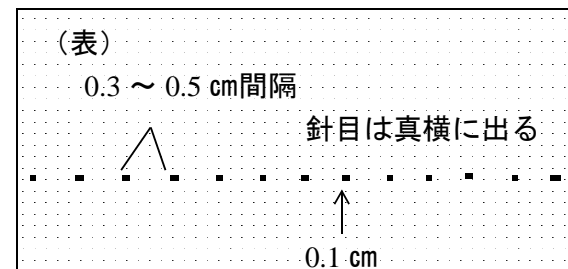
6 まつり縫い ~裾などの折りしろを手縫いで止めるときなどに用いる~

- (1) 玉結びを作る。
- (2) 布端を三つ折りにした折りしろの折り山を浅くすくう。
- (3) 反対側の表布をごく小針（織糸1本程度）ですくって、0.3 cm間隔にひと針ごとに抜きながらまつる。
- (4) 布と糸のつり合いを確認しながら縫い進め、最後に玉留めをする。



年 組 番 氏名

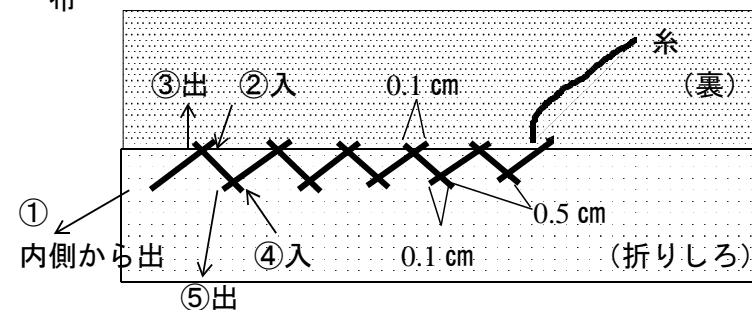
布



7 千鳥がけ ~まつり縫いと同様、裾などの折りしろを手縫いで止めるときに用いる~

- (1) 玉結びを作る。布の左端から縫い始める。
- (2) 折りしろの裏から糸を出し、表をすくう針目は裁ち目の際でごく小針にすくう。
- (3) 折りしろ側は、表まで縫い目が出ないようにすくう。
- (4) 布と糸のつり合いを確認しながら縫い進め、最後に玉留めをする。

布



布

